



# 2013年3月期 第2四半期 決算説明会

2012年11月

日本金銭機械株式会社

代表取締役社長 上東 洋次郎

ただいまご紹介いただきました 社長の上東 でございます。

本日はお忙しい中、弊社の 第2四半期決算説明会にご参加いただき、

有難うございます。

本日は、先ずはじめに、

2013年3月期 第2四半期の決算の概要について、ご説明し、

続いて、2013年3月期の通期予測

そして、最後に進行年度を初年度とした中期経営計画の概要について

お話しをさせていただきます。

## 2013年3月期 第2四半期累計業績



単位:百万円

### 連結経営成績

	2012/3	2013/3	前年同期比		2013/3	期初計画比	
	2Q累計実績	2Q累計実績	率	増減額	2Q期初計画	率	増減額
売上高	10,562	12,239	+15.9%	1,677	10,600	+15.5%	1,639
営業利益 (営業利益率)	399 (3.8%)	861 (7.0%)	+115.8%	462 (+3.2%)	320 (3.0%)	+169.3%	541 (+4.0%)
経常利益 (経常利益率)	389 (3.7%)	768 (6.3%)	+97.3%	378 (+2.6%)	330 (3.1%)	+132.9%	438 (+3.2%)
当期純利益 (当期利益率)	293 (2.8%)	549 (4.5%)	+87.2%	255 (+1.7%)	270 (2.5%)	+103.6%	279 (+2.0%)

1株当たり純利益	10.88円	20.37円	9.49円	10.01円	10.36円
自己資本当期純利益率	1.3%	2.4%	1.1%	1.2%	1.2%

### 平均為替レート

米ドル	81.78円	79.78円	-2.00円	83.00円	-3.22円
ユーロ	116.02円	103.76円	-12.26円	108.00円	-4.24円

1

### ◎ 2013年3月期 第2四半期累計業績

まず、当第2四半期累計業績について、ご説明いたします。

北米地域においては、規制緩和による新規カジノのオープンなどの市場環境の好転に加え、スロットマシンに搭載されている旧タイプの紙幣識別機ユニットのリプレイス需要を掘り起こしたことや新製品の積極展開により、シェアが向上いたしました。

さらには、金融向けのOEM供給も拡大いたしました。

また、国内の遊技場向機器市場では、パチスロコーナーの人気の持続し、関連設備の受注が堅調に推移いたしました。

さらに、流通市場向けでは、大手OEM先との関係強化とともに、これまでの製品開発が完了し、正式出荷が開始したことなどから売上高は 122億39百万円 となり 前年同期比では 15%の増収となりました。

利益面では、円高基調が続いたことにより、外貨建て資産の一時的な時価評価による為替差損 1億40百万円 がありましたが、増収となったことや構造改革などの費用削減効果もあり、営業利益は、8億61百万円、経常利益は、7億68百万円、四半期純利益は、5億49百万円となりました。

### ○重点施策の進捗状況

#### ①新規需要・新規分野の開拓

#### ②新興国市場

#### ③事業構造改革の継続

2

◎ 2013年3月期 第2四半期累計期間の概況

つぎに、重点施策の進捗状況について、ご説明いたします。

まず、新規需要・新規分野の開拓につきましては、

北米を中心に、紙幣鑑別性能を大幅に向上した iVIZIONシリーズ の市場への浸透を図っており、北米市場での規制緩和による新規カジノでのシェアアップを実現できております。

また、当社の旧製品であるWBAシリーズが市場に多く残っており、リプレース需要を喚起し、当第2四半期業績にも寄与いたしております。

国内外の金融市場向けを中心としたコマーシャル市場向けの大手中OEMメーカーとの関係をより強化、かつ深化させるとともに、この数年間に新製品開発投資も積極的に行った結果、取引量の拡大につながってまいりました。

また、具体的な数値化には、もう少し時間がかかるものの、海外での‘バリデータ 1本足打法’から脱却し、トータルコンポーネントメーカー、あるいは、システムメーカーへと変化するべく、プリンター事業会社の持ち分法化、無線技術を応用した事業会社への出資にも積極的に関与しております。

つぎに 新興国市場では、

中国、タイ、インドなどの新興国市場の拡大を図っております。中国での混乱など、マイナス要因もあり、十分な数値化には至っておりませんが、有望な市場であることに変わらず、引き続き取り組んでまいります。

事業構造改革につきましては、

これまで、事業構造改革として、固定費の削減、製品原価低減、海外商流変更に取り組んできたほか、今期には、国内事業会社の統合を推進しております。

これまで、

固定費の削減で 3億円、製品原価の低減は、進行年度を含めて、4億円、海外商流変更では、1億円 プラス 為替リスクの大幅な低下などの成果を実現できております。

引き続き、当期末には、国内事業会社の統合を実施し、より、効率的なグループ経営の実現を目指してまいります。

## 2013年3月期 第2四半期累計セグメント別売上高



単位:百万円

	2012/3 2Q累計実績	2013/3 2Q累計実績	前年同期比増減率	期初計画	期初計画比増減率	
日本金銭機械	売上高	4,295	5,138	—	—	
	外部売上高	721	1,239	+71.8%	1,210	+2.4%
	セグメント利益	△ 272	272	—	—	—
遊技場向機器	売上高	4,813	5,040	—	—	
	外部売上高	4,709	4,940	+4.9%	4,070	+21.4%
	セグメント利益	194	123	—	—	—
北米	売上高	2,703	3,972	—	—	
	外部売上高	2,660	3,955	+48.7%	3,230	+22.4%
	セグメント利益	101	273	—	—	—
欧州	売上高	2,400	1,995	—	—	
	外部売上高	2,392	1,989	-16.8%	2,040	-2.5%
	セグメント利益	201	198	—	—	—
アジア	売上高	3,158	4,343	—	—	
	外部売上高	78	114	+45.6%	50	+129.4%
	セグメント利益	100	114	—	—	—
調整	売上高	△ 6,809	△ 8,250	—	—	
	セグメント利益	63	△ 214	—	—	—
連結	売上高(外部)	10,562	12,239	+15.9%	10,600	+15.5%
	経常利益	389	768	+97.3%	330	+132.9%
海外売上高	48.6%	49.5%	930	50.2%	740	
	5,130	6,060		5,320		

3

### ◎ 第2四半期累計 セグメント別売上高

それでは、2013年3月期第2四半期累計期間業績の詳細について、

ご説明いたします。

セグメントごとの外部売上高とその状況について、次ページ以降で

ご説明いたします。

全セグメントにおいて、黒字となりましたが、欧州セグメントにおいては、

減収減益となりました。一方、欧州以外のセグメントにおいては、売上高、

セグメント利益が横ばい、もしくは、増加する基調となっております。

## 2013年3月期 第2四半期累計セグメント別(北米地域)



単位:百万円

		2012/3 2Q累計 実績	2013/3 2Q累計		増減率	
			期初計画	実績	前年同期比	計画比
北米地域	外貨売上高(千ドル)	32,526	38,918	49,574	+52.4%	+27.4%
	邦貨売上高	2,660	3,230	3,955	17,048	10,656

(注)増減率は、外貨ベース

ゲーミング	外貨売上高(千ドル)	29,052	32,347	40,383	11,331	8,036
	邦貨売上高	2,376	2,685	3,222	846	537
コマースヤル	外貨売上高(千ドル)	3,474	6,571	9,191	5,717	2,620
	邦貨売上高	284	545	733	449	188

平均為替レート(ドル)	81.78	83.00	79.78	△ 2.00	△ 3.22
-------------	-------	-------	-------	--------	--------

### 【概要】

- ・アメリカ国内での新規カジノ開業増によるOEM向けセールスの好調
- ・旧製品であるWBAのリプレースメント事業によるカジノ向け直接販売の増加
- ・金融機関向けOEM先との取引が好調なコマースヤル市場販売の増加

4

## ◎ 第2四半期累計 セグメント別 (北米地域)

続いて、各セグメントの概要について、ご説明いたします。

北米市場においては、外貨ベースで前年同期比52%の大幅な増収となりました。

米国ではリーマン・ショック以降に各州が税収不足となり、今まではゲーミングカジノには保守的であったメイン、メリーランド、

ペンシルベニアといった州において規制緩和があり、拡大した市場において、約70%の成約率をあげることが出来ました。

加えて、旧製品であるWBAの交換需要を喚起したことにより、カジノに対する直接販売も、前年同期比で大幅に増加したことから、これらを合わせて、ゲーミング市場における売上は、前年同期比では外貨ベースで39%のプラスとなりました。

コマースヤル市場におきましては、金融機関向け大手OEM顧客との関係がより深化し、関連する機器の需要も拡大したことから、外貨ベースの前年同期比で約165%の大幅な増加となりました。

2013年3月期 第2四半期累計セグメント別(欧州地域)



単位:百万円

		2012/3 2Q累計 実績	2013/3 2Q累計		増減率	
			期初計画	実績	前年同期比	計画比
欧州地域	外貨売上高(千ユーロ)	20,619	18,880	19,177	-7.0%	+1.6%
	邦貨売上高	2,392	2,040	1,989	-1,442	297

(注)増減率は、外貨ベース

ゲーミング	外貨売上高(千ユーロ)	17,731	16,298	16,570	-1,161	273
	邦貨売上高	2,057	1,760	1,719	-338	-41
コマースナル	外貨売上高(千ユーロ)	2,888	2,582	2,607	-281	25
	邦貨売上高	335	279	270	-65	-8

平均為替レート(ユーロ)	116.02	108.00	103.76	△ 12.26	△ 4.24
--------------	--------	--------	--------	---------	--------

【概要】

- ・円高ユーロ安の進行に伴う外貨換算における減収
- ・ユーロ圏における財政緊縮策による景気低迷、ドイツでのゲーム機設置台数上限規制の強化の動きに対する買い控え

5

◎ 第2四半期累計 セグメント別 (欧州地域)

続きまして、欧州市場は、ユーロ圏における財政緊縮策による景気低迷、またメイン市場であるドイツでの台数規制の強化の動きに対する買い控え等により、外貨ベースで、前年同期比で7%の減収となりました。

また、為替レートが前年同期比で12円26銭、計画比で4円24銭の円高となったこともあり、円貨ベースでは前年同期比16.8%の減収となりました。

2013年3月期 第2四半期累計セグメント別(遊技場向機器事業)



単位:百万円

	2012/3 2Q累計	2013/3 2Q累計		増減率	
	実績	期初計画	実績	前年同期比	計画比
遊技場向機器	4,709	4,070	4,940	+4.9%	+21.4%
				231	870

【概要】

・パチスロコーナーでの設備更新需要の好調が持続

◎ 第2四半期累計 セグメント別 (遊技場向機器事業)

続きまして、遊技場向機器事業について、ご説明いたします。

遊技機関連市場では、今年度に入ってもパチンコ機の縮小が続く一方で、パチスロ市場の伸張は続いており、パチスロの設置台数は3月末時点の136万台が7月末では140万1千台と2008年9月以来、3年10ヶ月ぶりに140万台の大台に戻しました。

このような市場状況のなかで、今上半期はゴールデンウィーク前及びお盆前工事が想定以上に好調に推移し、メダル貸機や補給回収関連設備等が計画比で大幅な増収となりました。

2013年3月期 第2四半期累計セグメント別(日本金銭機械)



単位:百万円

	2012/3 2Q累計	2013/3 2Q累計		増減率	
	実績	期初計画	実績	前年同期比	計画比
日本金銭機械	721	1,210	1,239	+71.8%	+2.4%

【概要】

- ・大手OEMメーカーとの関係強化
- ・開発が完了した新製品の出荷開始

7

◎ セグメント別 (日本金銭機械)

次に日本金銭機械セグメントですが、このセグメントの外部売上高の対象となる国内流通市場について、ご説明いたします。

当市場では、金融・流通市場に向けた紙幣識別機ユニットや、紙幣受取払出の還流ユニットなどを大手メーカーのOEMとしてユニット供給することを中心に活動を進めてまいりました。

今上半期は、大手メーカーとより深い関係の構築を行ってきたことにより、この数年開発に注力しておりました紙幣・硬貨釣銭機をはじめとした複数の新製品を前年下半期から採用いただくこととなり、これが大きく寄与し、前年同期比で増収となりました。



## 連結貸借対照表



単位:百万円

### 連結財政状態

	2011/9末	2012/3末	2012/9末	12/3末比		2011/9末	2012/3末	2012/9末	12/3末比
現金及び預金	9,031	7,237	7,185	△ 52	支払手形及び買掛金	2,952	3,561	2,797	△ 764
受取手形及び売掛金	4,275	5,619	5,591	△ 28	事業積造改善引当金	—	150	91	△ 59
たな卸資産	6,819	8,123	7,983	△ 140	その他	1,590	1,703	1,739	36
その他	1,015	969	990	21	流動負債 計	4,542	5,415	4,627	△ 788
					負ののれん	112	16	—	△ 16
					その他	790	813	723	△ 90
流動資産 計	21,142	21,950	21,750	△ 200	固定負債 計	902	830	723	△ 107
有形固定資産	4,952	4,939	4,885	△ 54	負債 合計	5,445	6,245	5,351	△ 894
無形固定資産	229	148	89	△ 59	株主資本 計	25,224	25,520	25,881	361
投資その他の資産	1,807	1,672	1,554	△ 118	その他の包括利益累計	△ 2,538	△ 3,055	△ 2,952	103
固定資産 計	6,988	6,759	6,529	△ 230	純資産 合計	22,685	22,464	22,928	464
資産 合計	28,131	28,710	28,279	△ 431	負債純資産 合計	28,131	28,710	28,279	△ 431
					1株当たり純資産	831.19円	832.63円	849.81円	17.18円
					自己資本比率(%)	80.4	78.2	81.1	2.9

### ◎ 連結貸借対照表

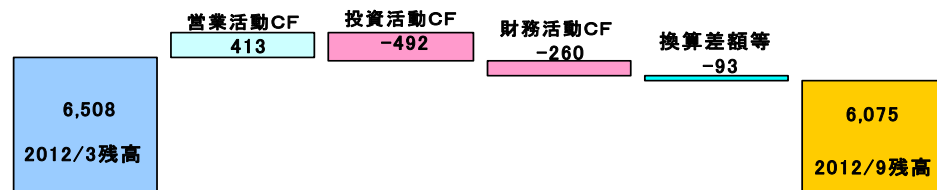
次に 連結貸借対照表について、ご説明いたします。

たな卸資産につきましては、この数年間でキャッシュフローの減少要因となっておりますが、大規模な自然災害や海外生産のカントリーリスクなどが生じても、当社から お客様への供給は、絶対に止めないという方針を持ちつつ、適切な保有高を維持するように努めてまいります。

# キャッシュ・フロー



単位: 百万円



	2011/3	2012/3	2012/9 2Q
営業活動によるCF	△ 1,024	△ 729	413
税金等調整前当期純利益	1,155	1,091	783
減価償却費	878	593	286
売上債権の増減額(△は増加)	△ 1,088	△ 1,267	50
棚卸資産の増減額(△は増加)	△ 1,747	△ 1,992	204
仕入債務の増減額(△は減少)	442	1,092	△ 794
投資活動によるCF	△ 1,345	△ 535	△ 492
定期預金の純増減額	△ 191	-	△ 391
有形固定資産の取得による支出	△ 907	△ 470	△ 142
財務活動によるCF	△ 111	△ 317	△ 260
配当金の支払額	△ 377	△ 376	△ 185
換算差額等	△ 561	△ 57	△ 93
現金の増減	△ 3,042	△ 1,641	△ 433
期末残高	8,150	6,508	6,075

9

## ◎ キャッシュ・フロー

次に、キャッシュフローの状況について、ご説明いたします。

2010年3月期以降の業績回復局面では、売上債権やたな卸資産の増加、構造改革費用の支出などにより、営業活動によるキャッシュ・フローは、マイナスが続いておりましたが、今上半期ではプラスとなりました。

また、現金残高の減少も続いておりましたが、たな卸資産などの運転資本の平準化も進むものと考えており、期末には現金残高は、80億円強になるものと予想しております。

## 2013年3月期 通期業績予想



単位:百万円

### 通期業績予想

	2012/3	2013/3	2013/3	前期比	
	実績	当初計画	予想	率	増減額
売上高	22,129	21,500	23,000	+3.9%	870
(率)	(4.8%)	(3.7%)	(6.1%)		(+1.3%)
営業利益	1,052	790	1,400	+33.0%	347
(率)	(5.7%)	(3.7%)	(5.7%)		(- %)
経常利益	1,259	800	1,300	+3.2%	41
(率)	(3.5%)	(3.0%)	(3.9%)		(+0.4%)
当期純利益	778	650	900	+15.6%	121
1株当たり純利益	28.87円	24.09円	33.36円		+4.49円
自己資本当期純利益率	3.5%	2.9%	3.9%		+0.4%
総資産経常利益率	4.4%	3.2%	4.6%		+0.2%
平均為替レート					
米ドル	79.62円	83.00円	79.44円		-0.18円
ユーロ	111.42円	108.00円	102.93円		-8.49円

10

### ◎ 2013年3月期 通期業績予想

それでは、進行年度である2013年3月期の見通しについて、ご説明いたします。

今期の見通しにつきましては、8月23日に発表させていただきましたとおり、期初計画値より上方修正をいたしております。

下半期の事業環境としては、

まず、北米地域では第4四半期ではWBAのリプレースメント需要が増えてくるものと想定しているものの、第3四半期で今期の新規オープンカジノ案件が終了する見込みであり、上半期に比べて売上は減少傾向になるものと予想しております。

一方、欧州地域では下半期において、大手顧客からの受注も増えてきており、今期後半から、来期前半にかけての増収を想定しております。

国内では遊技場向機器市場では、パチスロ人気が続く見込みで、年末商戦に向けて期待がもてるものと思われそうですが、毎年年初の売上が低調であるといった季節的な要因もあり、上半期と比べると減収になるものと想定しております。

以上の想定のもと、下半期の売上高は上半期比で約10億円下回り、通期の連結業績としては、売上高は、前期比 3.9%増の 230億円、当期純利益も前期比 15.6%増の 9億円と増収増益を予想しております。

尚、下半期の為替レートは、1ドル 79円06銭、1ユーロ 100円50銭を想定しております。

## 2013年3月期 通期予想 セグメント別売上高



単位: 百万円

		2012/3 実績	2013/3 予想	前期比増減率	期初計画	期初計画比
日本金銭機械	売上高	10,195	9,868	—	8,534	—
	外部売上高	1,806	2,600	+44.0%	2,605	-0.2%
	セグメント利益	356	554	—	440	—
遊技場向機器	売上高	10,614	9,529	—	8,720	—
	外部売上高	10,389	9,200	-11.4%	8,415	+9.3%
	セグメント利益	140	176	—	207	—
北米	売上高	5,715	7,345	—	6,412	—
	外部売上高	5,646	7,300	+29.3%	6,405	+14.0%
	セグメント利益	133	445	—	221	—
欧州	売上高	4,028	3,725	—	3,731	—
	外部売上高	4,012	3,700	-7.8%	3,726	-0.7%
	セグメント利益	341	174	—	100	—
アジア	売上高	7,508	8,702	—	7,375	—
	外部売上高	274	200	-27.3%	349	-42.7%
	セグメント利益	71	100	—	82	—
調整	売上高	△ 15,932	△ 16,169	—	△ 13,272	—
	セグメント利益	215	△ 149	—	△ 250	—
連結	売上高(外部)	22,129	23,000	++3.9%	21,500	+7.0%
	経常利益	1,259	1,300	+3.2%	800	+62.5%
海外売上高		44.9%	48.7%	1,267	48.7%	
		9,933	11,200		10,480	720

11

### ◎ 2013年3月期 通期予想 セグメント別売上高

次に、セグメント別の通期予想数値を示しております。

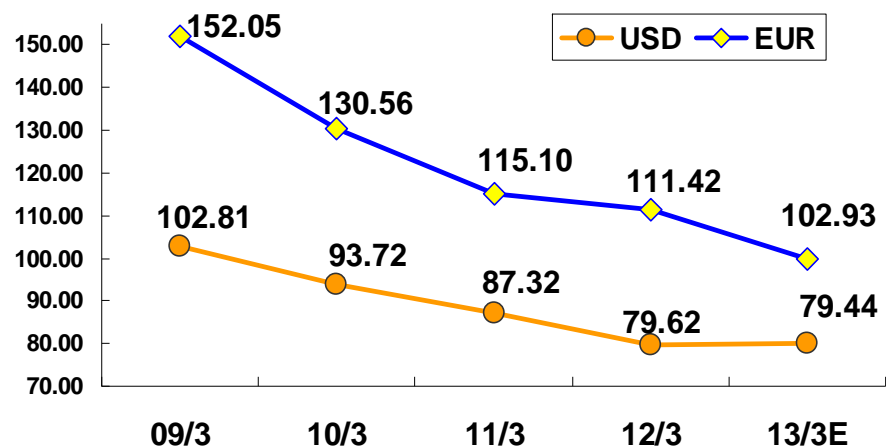
期初計画対比で見ますと、外部売上高では遊技場向機器と北米

における伸長を予定しております。

## 為替の推移



単位:円



1円当たりの営業利益への影響額(予想)

米ドル	33百万円	0百万円	9百万円
ユーロ	18百万円	2百万円	6百万円

12

### ◎ 為替の推移

通期の予想レートは、米ドル79円44銭、ユーロ102円93銭

を見込んでおります。

## 設備投資額・減価償却費・研究開発費の推移



単位:百万円

	2011/3 実績	2012/3 実績	2013/3 計画	2013/3 予想
設備投資額	877	455	525	525 (162)
減価償却費	884	599	585	585 (288)
売上高比率	6.3%	6.0%	6.5%	6.1%
研究開発費	1,268	1,333	1,400	1,400 (654)

( )内は、第2四半期累計実績

13

### ◎ 設備投資額・減価償却費・研究開発費の推移

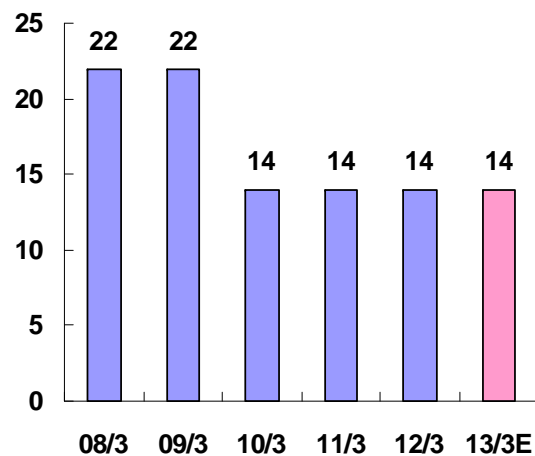
設備投資額につきましては、前期末で、製品の開発が一巡したことに伴い、

上半期は製造金型への投資が減少しておりますが、下半期には新製品の金型への投資を予定しており、通期では期初計画どおりになるものと見込んでおります。

研究開発費につきましては、社会情勢や顧客ニーズの多様化に迅速に対応した市場性の高い製品の創出に重点を置いております。また、潜在する新たな市場を開拓するために、各種製品の要素技術力並びに製品開発力の向上にも努めております。

第2四半期累計実績は、前年同期とほぼ同水準の6億54百万円ではありますが、下期に本格稼働するプロジェクトの開発費用を織り込んだ結果、通期では、計画と同水準である14億円を見込んでおります。

## 利益還元



《利益還元基本方針》  
・配当性向(連結)  
30%以上  
・純資産配当率  
2.0%以上を目標

配当性向推移(%)

412.8 31.7 — 56.7 48.5 42.0

14

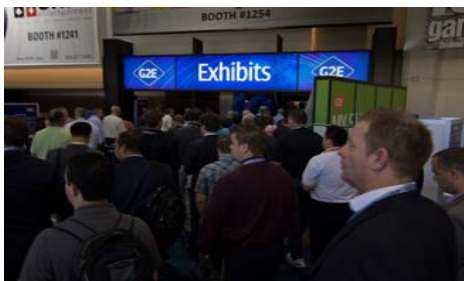
### ◎ 利益還元の状況

利益還元につきましては、当期の中間配当は予定通り7円とさせていただきますが、期末配当につきましても7円を予定しております。

## トピックス



### G2Eショー・ラスベガス(10月2~4日)



15

### ◎トピックス

続きまして、トピックスとして、先月10月2~4日に開催されました世界最大のゲーミングショーであるG2E・ラスベガスについて触れたいと思います。

今回の当社のテーマは「我々は進化する、それがJCMのDNAだ」というキャッチフレーズで、従来のコンポーネント商品のほか、新たな製品や技術のデモンストレーションを実施し、JCMはバリデータだけでなく、多方面に向かって事業を伸ばそうとしているという点をアピールし、システム・テクノロジー会社として成長する意思表示が十分にできたと感じております。

実際に業界では、当社のブースが先端技術のショーケースとしての認知も進んでおり、明らかに競合他社とは一線を画したものであり、テレビやローカル新聞でも取り上げられるなど、注目度は非常に高かったように感じております。

このように非常に盛況であり、期待以上の反響もありましたが、それぞれの製品を速やかにビジネスに結びつけていけるように、取り組みを進めてまいります。

ここで、先ほど申し上げた新たな製品や技術について、簡単にご説明いたしますと

一つめとしては、LFG社と共同開発したコンポーネントをマネジメントする製品であります。

同社とはワイヤレステクノロジーでゲーム機のコンポーネントを管理するシステムを出展いたしました。

このシステムを活用いたしますとバリデータのソフトウェアの交換がリモートで可能になったり、弊社識別機 I-VISIONのスキニング機能を最大限に活かすことができるようになるものであります。

二つ目としては、テックファームの次世代NFCとの協業であります。これは同社と業務提携し、スマートフォンの非接触通信技術を使ったカジノ向けの決済システムであります。

これによって、チップやコインのやり取りをカジノホテル内で使える電子マネーで代替できるという技術であります。



# 中期経営計画

～ 貨幣流通において市場と価値を創造し続ける  
真のグローバル企業を目指して ～

2012年11月

 **日本金銭機械株式会社**

## ◎ 中期経営計画

続きまして、このたび当社は、2014年(平成26年)度を最終年度とする中期経営計画を策定いたしましたので、その内容についてご説明申し上げます。

## 前期までの取り組みについて



① 国内・海外グループ再編によるグループ内事業の効率化

② 事業拠点及び人員の集約化、並びに商流の変更による  
為替リスクの極小化

③ コア事業(貨幣処理機器)を中心に、新製品及びシステム・  
テクノロジーの開発のための積極投資

④ 新製品による国内外大手OEMを中心とした取引の積極  
拡大

⑤ コーポレートガバナンス体制の一層強化

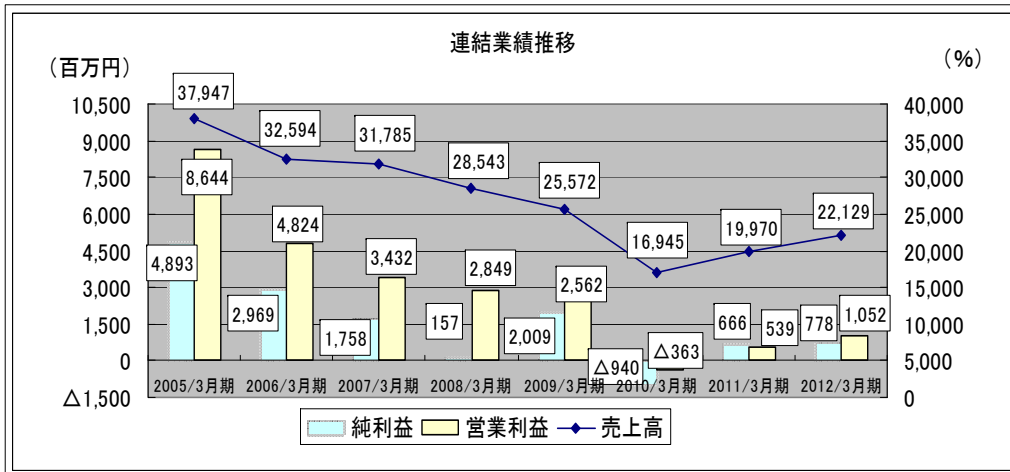
17

### ◎ 前期までの取り組みについて

当社グループの事業環境は、2009年度以降、リーマンショック後の世界同時不況による北米ゲーミング市場での設備投資抑制や、急激な円高の進行、更には国内遊技場向機器市場でも、ホール店舗数の減少が続くなど、停滞を余儀なくされました。

そのため、事業構造の再構築による収益力の改善を最優先として、お手許の資料のような取り組みを進め、高コスト体質からの脱却をはかるとともに、収益を伴った更なる成長を可能とする企業体質の強化を目指してまいりました。

## 前期までの取り組みについて



	2005/3月期	2006/3月期	2007/3月期	2008/3月期	2009/3月期	2010/3月期	2011/3月期	2012/3月期
売上高	37,947	32,594	31,785	28,543	25,572	16,945	19,970	22,129
営業利益	22.8%	14.8%	10.8%	10.0%	10.0%	-2.1%	2.7%	4.8%
当期純利益	8,644	4,824	3,432	2,849	2,562	-363	539	1,052
レートの(円/ドル)	108.07	110.94	116.39	117.71	102.81	93.72	87.32	79.62
(円/ユーロ)	134.41	137.71	146.89	162.00	152.05	130.56	115.10	111.42
ROE(%)	21.7	11.3	6.3	0.6	7.6	-3.8	2.9	3.5

18

### ◎ 前期までの取り組みについて

これらの取り組みによる成果により、お手許の資料のように2010年3月期をボトムとして業績には回復の兆しが出てきております。

そこで、前期までの取り組みを更に加速・継続しつつ、

「貨幣流通において市場と価値を創造し続ける真のグローバル企業」を目指し、2014年(平成26年)度までの目標を定めた中期経営計画を策定いたしました。

その達成に向けてグループが結集して取り組むことにより、顧客やシェアホルダーから支持され、発展し続けるグループになることを目指してまいりたいと考えております。

## 中期経営計画の基本方針及び重点施策について



### 貨幣流通において市場と価値を創造し続ける真のグローバル企業



- ① 貨幣処理機器分野において、新興国、未開拓市場への積極展開を図る
- ② グローバル市場規模において、これまでに培った北米、欧州市場でのゲーム機メーカー、顧客、また国内市場での大手OEM、ホール運営会社等との関係強化、さらには、新たなパートナーとの協力関係の構築を目指す。
- ③ 新製品、新技術の開発、商品化のための積極投資を継続し、次世代の収益基盤を支える新たなビジネスの創出を目指す。
- ④ 当社グループの事業内容、規模に適応し、かつ柔軟、迅速な事業展開が可能なグループ体制の再構築に向けた取り組みを加速させる。

19

### ◎ 中期経営計画の基本方針及び重点施策について

今回の中期経営計画では、弊社グループが目指す姿に向けて、

お手許の資料のような4つの基本方針及び重点施策を掲げております。

まず、1点目として、

貨幣処理機器分野において、アジアを始めとした新興国市場や、アジアカジノ市場、そして北米・欧州地域におけるコマース市場といった未だ開拓できていない市場への積極展開を図ってまいります。

次に、2点目として、

グローバル市場規模において、これまでに培ってきた北米や欧州市場でのゲーム機メーカーや顧客、また一方では国内市場における大手OEM、ホール運営会社等との関係強化、さらには、新たなパートナーとの協力関係の構築を目指してまいります。

続いて、3点目として、

新製品や新技術の開発、商品化のための積極投資を継続して実施し、次世代の収益基盤を支える新たなビジネスの創出を目指してまいります。

最後に、4点目として、

当社グループの事業内容や規模に適応し、かつ柔軟、そして迅速な事業展開を可能とするグループ体制の再構築に向けた取り組みを加速させたいと考えております。

## 経営環境について



### 市場環境

- ・国内
  - ・遊技場向部門
    - ・店舗数、市場規模ともに減少傾向が続く
    - ・パチスロ特需は2013年度には収束に向かう
  - ・流通部門は大手OEM先での新製品採用により、堅調に推移
- ・北米地域
  - 財政難に苦しむ各州がカジノ開設の動きへ
- ・欧州地域
  - ユーロ圏における欧州債務問題による景気低迷が継続
- ・アジア
  - 新興国での自動化・機械化への動き
- ・為替
  - 対ドル、対ユーロで円高傾向が継続

20

### ◎ 経営環境について

次にベースとなる想定した市場環境について、その概要を申し上げますと、

まず、国内の遊技場向機器市場では、2011、12年度と続いたパチスロ増台の傾向が一段落するものと予想されていることから、この2期間よりは厳しい見方をしております。流通事業に関しては、大手OEM先で新製品を採用いただいたこともあり、堅調に推移するものとみております。

一方、海外では、北米地域は08年のリーマン・ショックの最悪期をボトムに回復基調にあり、ラスベガスやアトランティックシティといった既存のカジノ市場ではまだ購買意欲は低いものの、米国経済の回復が遅れている中で、財政難に苦しむ各州による多額の税金をもたらすカジノの開設の動きが続くものと見ております。

次に、欧州地域では、ユーロ圏における欧州債務問題による景気低迷が続くものと想定しておりますが、前半の当期の業績のところでも申し上げましたとおり、今期後半から来期前半にかけて大手顧客からの受注も想定しております。

最後に、アジア地域では、中国市場においては、今回の領土問題に関連して、今後の営業活動については不透明感が出てきましたが、今後、各方面で自動化・機械化が進んでいくと思われる東南アジア諸国やインドでの需要に期待が持てるものと考えております。

尚、為替は対米ドル、ユーロに対しては、円高傾向が継続するという予測をしております。

## セグメント別数値目標



単位:百万円

	2011/3 実績	2012/3 実績	2013/3 予想	2014/3 中期計画	2015/3 中期計画
日本金銭機械	1,591	1,806	2,600	2,950	3,570
遊技場向機器	7,693	10,389	9,200	8,950	9,430
北米地域	67,006 5,851	70,912 5,646	91,900 7,300	108,625 8,690	113,500 9,080
欧州地域	40,339 4,643	36,008 4,012	36,000 3,700	37,700 3,770	40,700 4,070
アジア地域	190	274	200	340	350
連結	19,970	22,129	23,000	24,700	26,500

(補足)北米地域の上段は千米ドル、欧州地域の上段は千ユーロ

21

### ◎ セグメント別数値目標

21ページに、セグメント別の目標数値を示しております。

まず、国内の流通事業においては、硬貨・紙幣釣銭機の取引先の拡大に取り組みとともに、還流ユニットの投入による新市場の開拓に注力してまいります。

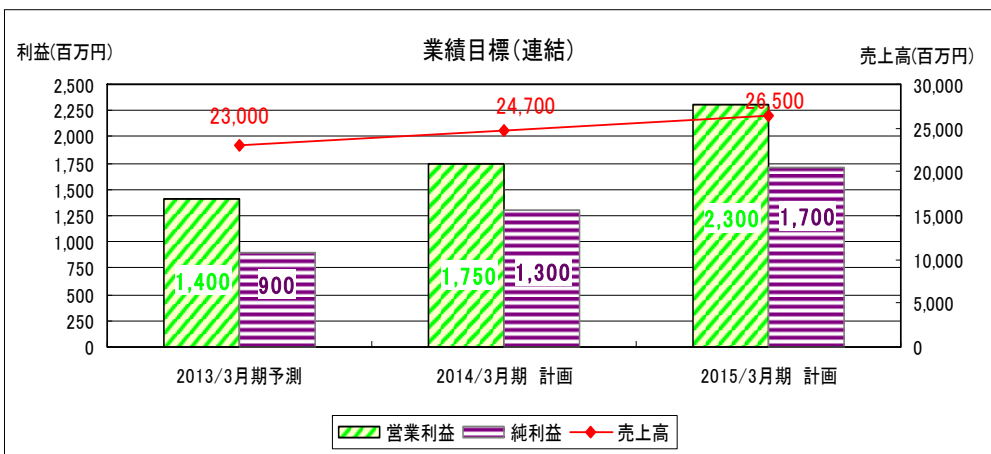
次に、遊技場向機器事業では、パチスロ増台の傾向が一段落すると予想されるなかで、新製品の投入やAM部門での新規出店により、増収を目指してまいります。

続いて、北米地域では来期以降もカジノの新規オープン傾向が続く見込みであることや弊社の初代識別機WBAのサポートを今年末で中止することによるリプレースメント需要が本格化すると見込まれること、そして提携会社との協業も更に拡大させていくことで、大幅な増収を目指してまいります。

欧州地域では、コマーシャル市場の深耕や新市場の開拓に取り組んでまいります。

最後に、アジア地域においては、東南アジアやインドといった新規市場の開拓を進めていきたいと考えております。

## 経営数値目標



	2013/3月期 予測	2014/3月期 計画	2015/3月期 計画
売上高	23,000	24,700	26,500
営業利益	6.1%	7.1%	8.7%
当期純利益	1,400	1,750	2,300
レート(円/ドル)	79.44	80.00	80.00
(円/ユーロ)	102.93	100.00	100.00
ROE(%)	4.0	5.5	6.9

22

## ◎ 経営数値目標

続きまして、業績目標といたしましては、お手許の資料のように

2014/3月期では	売上高	247億円
	営業利益	17億5千万円
	純利益	13億円
2015/3月期では	売上高	265億円
	営業利益	23億円
	純利益	17億円

の達成を目指してまいります。

尚、為替レートは、2014/3月期、2015/3月期 とともに

1ドル 80円 、 1ユーロ 100円 としております。

## 主要指標



### ◇研究開発投資 (百万円)

2011/3月期 実績	2012/3月期 実績	2013/3月期 予想	2014/3月期 計画	2015/3月期 計画
6.3%	6.0%	6.1%	6.0%	5.7%
1,268	1,333	1,400	1,490	1,500

上段は、対連結売上高比率

### ◇設備投資 (百万円)

2011/3月期 実績	2012/3月期 実績	2013/3月期 予想	2014/3月期 計画	2015/3月期 計画
877	445	525	800	550

### ◇利益還元

連結配当性向 30%以上

利益還元については、更なる成長基盤の強化に向けた戦略的投資を優先させながら、安定的・継続的な配当を目指して連結配当性向30%以上を基準とし、かつ純資産配当率2.0%を目指す。  
また、今後の利益拡大に連動させて増配を志向。

## ◎ 主要指標

その他の主要な指標の計画数値でございますが、

研究開発費は連結売上高の6%前後を維持していく予定であります。

設備投資は、生産用及び開発用の金型への投資を中心に、新たな事業展開に必須となる投資を実施していく計画であります。

今中期計画では、2014/3月期にアミューズメント部門での新店の出店投資3億円を予定しております。

利益還元については、更なる成長基盤の強化に向けた戦略的投資を優先させながら、安定的・継続的な配当を目指して連結配当性向30%以上を基準とし、かつ純資産配当率2.0%を目指してまいります。

また、今後の利益拡大に連動させて、増配できるように取り組んでまいりたいと考えております。



## 中期計画における推進テーマについて



### ・海外生産の歴史と今後の展開

#### ・海外生産の経緯

- ・1987(昭和62)年 香港に製造子会社JCM GOLD HKを設立
- ・1995(平成 7)年 シンセンに中国事務所を開設
- ・2010(平成22)年 中国本土での生産統括拠点としてJCM CHINAを設立

#### ・第2の海外生産拠点 (China+1プロジェクト)

- ・STEP1 国内外注組み立てを海外にシフト
- ・STEP2 海外での一貫生産
- ・STEP3 欧州、中南米等市場に近接したエリア  
あるいは東南アジアでの生産

24

### ◎ 海外生産の歴史と推進テーマについて

最後に、今回の中期計画期間で特に取り組んでまいります新製品やテーマについて、少し触れさせていただきたいと思っております。

当社グループのコストダウンに大きな貢献を果たしている海外生産について、これまでの変遷を含め、まとめてみました。  
1985年のプラザ合意以降、ドル高是正が進み、ドル円240円台が1987年にはドル円・140円台、2005年度以降には110円台、更にはリーマンショック以降の2009年度には93円台となり、現在の79円台に至っております。  
海外売上高が過半を占める当社の収益構造としては、円高による為替リスクの回避が不可欠の歴史でありました。

このため、当社グループでは、1987年6月、当時の香港に製造子会社 JCM GOLD HKを設立し、現地生産を開始しました。  
その後、中国のメーカーへの来料加工委託を開始するとともに、現地生産の規模を当社のコア事業である貨幣処理機器にも順次拡大し、2010年には中国本土での生産統括拠点としてJCM CHINAを設立し、現在に至っております。  
その間、外貨建て売上が増加するにつれ、為替相場と連動して、2004年までは毎期において1円・ドルの円高がおおよそ50百万円前後の収益の悪化要因となっておりましたが、矢継ぎ早のこれらの施策の効果もあり、当進行年度では9百万円までの圧縮が可能となりました。

しかしながら、中国の賃金高騰の傾向は昨今ますます強くなり、上海及び深セン地区での前年(2010年)対比2011年度は20%強、2012年度は同様に前年対比25%に迫るようになっております。  
この状況を受け、当社グループでは、直ちに対応策を協議、昨年後半よりカントリーリスクも勘案し、中国以外の第三国への生産シフトの方針を表す「China+1」の展開方針の検討を開始いたしました。

生産シフトの段階を3段階に区分しつつ、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピンへのシフトを視野に入れ、視察と検討を重ね、現在、ユニット組み立てのシフトを意味する「ステップ1」をフィリピンで展開しており、これによってリスク回避とコストダウン目標の達成を目指していく所存であります。

後発的に発生した領有権問題もさることながら、当社グループでは常に為替乱高下のリスクを避け、ドルにリンクした生産活動を進めてまいりました。

今後は、展開予定の「China+1」の「ステップ3」の段階では、欧州、南米での生産も視野に入れ、産地費消の観点に立った生産方針を立案して実行に移すべく計画をしております。

## 中期計画における推進テーマについて



### ・新規テーマ

- ・カジノでのワイヤレスシステム
- ・非接触通信技術を使った決済システム
- ・テーブルゲーム機向け新製品
- ・次期バリデータ
- ・硬貨還流装置
- ・次期メダル自動補給装置

25

### ◎ 中期計画における推進テーマについて

次に、中期計画における推進テーマとしては、先ほども少し

触れましたが、

- ・カジノでのワイヤレスシステム
- ・非接触通信技術を使った決済システム
- ・テーブルゲーム機向け新製品

などをいかに早くビジネスにつなげていけるか、

また、次世代のバリデータ や メダル自動補給装置の

開発も推進してまいります。



日本金銭機械株式会社 <http://www.jcm-hq.co.jp>

お問合せ先 : 広報・IR室 仲谷 06-6703-8400

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えに願います。なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願いいたします。

今回の中期計画を総括いたしますと、基本的には、現在ある製品や商材、市場をベースに、今後2年半でどこまで数字を伸ばすことができるか、という点を中心にまとめたものであり、構想段階の製品の販売見込や中期ビジョンとして掲げるM&Aによる市場開拓などによる売上の伸びは含めておりません。

このため、一見すると目標数値は保守的な印象があるかと思いますが、その分非常に確実性の高い計画になっていると思っております。そのような範疇の売上構想は、今後のノリシロとお考えください。

しかしながら、現在販売で実績を稼ぎ出し、または今回の中期計画の販売の柱となっている製品は、業績が落ち込んでいた時点において、事業再構築の最重要課題として、将来の主力機種を目指して積極的な新製品開発に全役員及び全従業員が着手し、結実したものであります。

当社にとって、新製品の市場投入による市場の喚起は、最も重要な戦略であり、自社開発のほか、M&Aによるものも視野に入れて、積極的にチャレンジを続けてまいります。

更に、今後注力すべき市場としては、アジア地域の重要性は当然として、ゲーミングとしての市場は終息したものの、流通マーケットとしても大きな可能性を秘めているロシア市場への展開を目指してまいりたいと考えております。

以上、進行年度の上半期の決算の概要と進行年度の見通し、そして中期経営計画についての私からの報告を終わります。

ご静聴いただき、ありがとうございました。